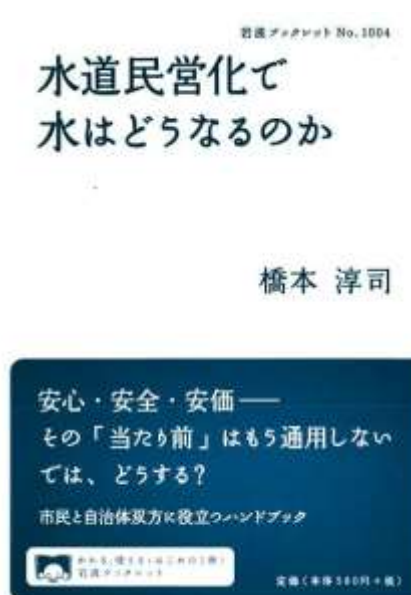


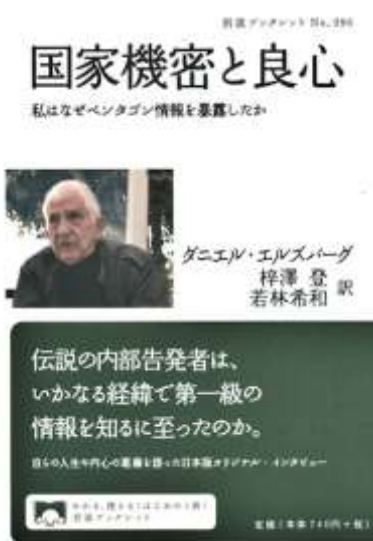
# 「社会力をつけるための」小学生・中学生・高校生の必読書

志成館のホームページは、「学校で習う知識に加えて、今後の人生を強くなおかつ楽しく生きていくためのアドバイス」を主たる目的として作成されています。ですから、「学校で習う科目」以外の多くのホームページの項目は、基本的には「社会力をつける」ことを目的にして作られています。従いまして、ここに特別に項目をつくることもないのですが、今の時代は、学校もテレビも新聞も、すべてが「人々に受けること」「人気が出ること」したがって、見返りがあり「利益が出ること」を目的として色々な情報が提供されており、真の意味での社会力が付くような形での情報の提供はあまりなされていません。そこで、現実の生活の仕組みの中で、どのような知識を身につければ、真に「真実の、客観的で、公平な社会力」が身に着くかを伝えるために、志成館館長が、これまで接してきたいくつもの書籍の中で、「小学生、中学生、そして高校生という、ある意味では純粋で純真な意識と情熱を持つ世代」及び「そのような気持ちを大切にする人たち」への書籍の紹介という形で、あえてここに一つの項目を設定しています。

いくつもの良書があるのですが、この項では主に岩波書店発行の「岩波ブックレット」の紹介をしています。新聞やテレビで話題になっていることで、子供たちから見れば、このようなメディアからのメッセージは「どこに問題があるのかわかりにくい」し、ある意味では「放送局や新聞社の独特の価値観ないし偏向的な姿勢（＝偏った価値観や判断による報道姿勢）」がとても多く、「これでは真の社会力が身に付くはずもない」という確信のもとで、このホームページの右欄の館長の社会論の中の「反知性主義との闘い」を続ける「岩波月刊誌【世界】」という項目に対応したものとなっています。岩波ブックレットの著者の顔ぶれは、まさしく「日本の良心」「人間の良心」を持っておられる、とても立派な方たちばかりであり、これまでの私の人生に「正しい判断力」と「勇気」や「希望」を与えてくれた人たちであるという確信をもとにして、一人でも多くの子供たちに読んでほしいと願って作った項目です。

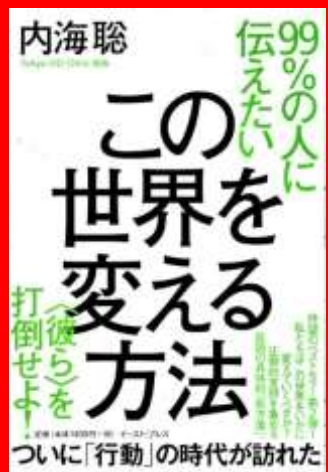
**「岩波ブックレット」**はすでに1000冊を超えています。これらの本を書いている人たちが、本物の学者であり、あなた達や先生たち大人も尊敬する必要がある人物なのです。そして、**このような本の著者こそ「あなた達の味方＝あなた達の守り神」**なのです。





志成館の本立てや書庫には、もっとたくさんの「岩波ブックレット」(ブックレットとは、パンフレットみたいにわかりやすく読みやすい小さな本という意味です)があります。ときどき読んでいる人を見かけますが、もっと多くの志成館生が読んでくれることを陰から(笑)願っています。このホームページにもっと追加をしていきます。紛れもなく「**本当の社会力**」「**本当の日本や世界の姿がわかる本**」になっています。

**【次に】下の左の2冊を読み、その後右の2冊を必ず読んでください!!** 世界や日本の姿が今までとはまるで異なったものに見えてきます。これが「**真実の世界**」です。ただあなた達が誤解しないように、志成館にある本には、館長が説明を鉛筆で付け加えていますので、それも必ず読んでください。



## 「この本だけはぜひ」・・・2017年版です。伊藤真先生の本は素晴らしい！！

志成館のトップページの右側に「この本だけはぜひ」という項目がありますが、これは大学生から大人用の「この本だけは読んでください」の項目で中学生には少し難解です。(本当は中学生の君たちにも是非読んでもらいたいのですが)。この項の初めの部分は「点数を取るための」志成館の授業内容に関する「生徒を集めるための宣伝」の項目です。しかしこの項の「これだけは」は「日本中の全ての中学生に読んでもらいたい本」の紹介になっています。今後の人生を充実させるために、志成館に来ている人も来ていない人もぜひ読んでください。

最近の時代は「反知性主義」の時代と言われます。確かに点を取るために小学生も中学生も高校生も必死になって頑張っていますし、それはとても良いことです。ただそれと同時に「今抱えている自分や周囲の友達の問題について真剣に考えること」や「今の家族や学校や部活や社会そして国や世界も含めて今の時代にはどんな問題があり」「どのような社会にしたらよいのだろうか」と今現在も考えながら勉強することもとても大切です。そのよう「未来に向かっての展望や行動の目安」を今のうちから少しずつ考えておかないと、就職やその後の仕事内容そして人生そのものが思い通りにならず、結果として「今の君たちの頑張りが報われない」ことにもなるのです。点を取るだけではなく本当に必要な知識も同時に少しずつでよいので考えることを身につけてください。

点が取れば良い、難易度の高校や大学に進学して待遇の良い会社に入ればよい、という形で「学習塾」がけんめいに学習させることは大切ですが、もし今の時代が過度の競争社会であり、人間の心を大切にしない時代ととらえられるならば、そして一部のエリートたちが日本という社会での周囲の人たちの事を考えずに、自分の利益のままに行動していると感じ、そしてそんな社会をつくるのに一定の役割を果たしたのが「学習塾」であると考えられるなら、今の時代の「学習塾の責任」も大きいと思います。志成館という塾の最大の誇りはこのような「社会にとって好ましくない発想を持った子供たちにならないように」という思いから、「勉強で負けるな」そして「それ以上に人間的に立派になることで社会の指導者になってくれるように」そして「幸せを手にするためには社会の仕組みの正しい把握も今のうちからしっかりとするように」という指導をしてきたことにあります。このような観点からこの項に「中学生に読んでほしい本」をこれから順次アップしていきますので、ぜひ読んでください。

### 01) 伊藤真(まこと)

#### 「10代の憲法な毎日」「本質をつかむ思考法」

#### 「夢をかなえる勉強法」「成し遂げる人の一点集中力」

伊藤真(まこと)先生は弁護士や裁判官や検察官のような法曹(ほうそう)=法律家になるために必要な国家試験に合格するための予備校である「伊藤塾」を運営されている**弁護士の先生**です。これまで日本中の多くの法曹は彼によって育てられたと言っても過言ではありません。「**司法試験のカリスマ講師**」としてあまりにも有名です。同時に彼は自分のことを「**憲法の使徒**」として位置づけ、現在の日本国憲法を守り、そのすばらしい教えを日本中の人たちに広めることに人生をささげられているとても立派な人です。最近もテレビに出ておられましたが、テレビや新聞でとても活躍されている人です。

何を隠そう(笑)、この伊藤真先生は実は**森館長の先生**なのです。志成館を始める少し前に館長が東京に法律の勉強をしに行っている時に習った先生なのです。教え方はとても上手で、森館長も時々彼の話し方をまねして授業するときがあります、特に程度の高い内容の話をするときだけですが、そして何を隠そう(笑)、多くの法律家が合格のために使っている**日本最高の司法試験や公務員採用試験用の教材や書籍の多くが伊藤先生が自分で作られそして使われていたノートがもととなって作られた本**なのです。伊藤先生は美男子でスタイルもよく優しく決して自分のことを自慢することがない素晴らしい先生なので、若い女子大生たちは伊藤先生が近くに来ると嬉しくてきゃあきゃあ騒ぐ有様でした。尚、館長は自宅を新築し親孝行は果たしたと思っただけで農業から離れてから東京に勉強に行きましたので伊藤先生の方が館長よりもだいぶ年下です。

さてまず彼の「**10代の憲法な毎日**」を一冊目に挙げます。感が良い人はなぜかがわかるかと思いますがいかがでしょうか。そうですね、点数を稼ぐことよりもまず「健全な日常生活を送ることの方が大切である」と考えているからなのです。目次をコピーしますので目次だけでも読んでください。そうすると間違いなく「**生きる力と自信と誇り、そして困難に陥った時の対応方法**」がわかります。戦後の偶然的な理由があったとはいえ(詳細は「館長の社会論サイト」の「憲法」の項目に記述しています)マッカーサーが連れてきたアメリカの若い学者たちは信じられないほどの素晴らしい、第二次世界大戦後の時代の最先端を行く発想で「日本国憲法」をつくってくれたのです。伊藤真先生のこの本をしっかり読んで「日本国憲法」が伝えるすばらしい内容とこの憲法ができるまでの人権の歴史の重みがわかれば、日本人であることの誇りと将来への理想も見通せます。

**伊藤真先生は日本中のどの塾や予備校の先生よりも優れた講師であるという森館長の言葉を信じて下さい。かのテレビで有名な林修先生よりも格段に優れています。「目的のある知識人」だから。**

# 10代の憲法な毎日

伊藤 真著



岩波ジュニア新書

目次

はじめに

プロローグ

## 1章

学校内での自由と権利とは？

①茶髪はルール違反、それとも……／②学校外の生活にまで口をはさむ……／③「好き」という気持ちを大事に……／④悪いことをしてないのに？／⑤私の成績、どう評価されている？／⑥宿題が多すぎる！／⑦学校側を考えてほしいこともある！／⑧からのままでのまとめ／⑨部活動で自分を高める／⑩生徒会でできること／⑪体罰・

3

1

ii 目次

「自由」と「権利」と「民主主義」を理解しましょう

## 2章

学校という制度のあり方を考える

いじめから身を守る／①思想・良心の自由を保障する／②表現の自由／③他人と違っていいんだ！／④外国人と共に生きる／⑤からのままでのまとめ

87

## 3章

家の中の自由と権利とは？

①門限とか小遣いのこと／②家の手伝いはしなくちゃいけないの？／③親子って何？／④虐待から守られる／⑤兄弟は、平等！／⑥からのままでのまとめ

125

## 4章

社会生活の中の自由と権利

①習い事をする、自分を高める／②生活保護、社会保障は権利！／③未成年者が契約すること／④肖像権、著作権って？／⑤犯人だと疑われてしまったら／⑥未成年者が罪を犯してしまったら／⑦ボランティア活動、奉仕活動に参加する／⑧未成年者も住民投票できる！／⑨政治に関わる議院権を行使する／⑩からのままでのまとめ

159

おわりに

216

iii 目次

iv

志成館の森先生はいろいろな点で日本一のカリスマ講師と言われている伊藤真(いとうまこと)先生の学習指導方法を模範にしています。勉強が嫌いな人には「厳しい指導をしない先生」だと感じている人もいますが、勉強をまじめに考え、大きく伸びたい人には森先生の授業は実はとても厳しい「自分から進んで学べるための指導」をしていることに気が付くはず。何しろ伊藤真先生が教えている東京大学の生徒たちと同じように「人の上に立てる学習指導」を君たち中学生にしているのですから。志成館に来て森先生の話すことを静かに深く吟味して聞いてください。誰でも東京大学等難関大学に合格できるはず。そのような先輩もたくさんいます。塾に来てからは「頭を緊張させないでリラックスさせながら」なおかつ「教室には自分一人しかいないという気持ちで」先生の話す言葉の一言も聞き逃さないように集中して「授業を聞いて下さい。将来必ず素晴らしい結果が出ます。」

# 本質をつかむ 思考法

Makoto Ito's Guide to Critical Thinking  
How to Get to the Heart of the Matter

伊藤真  
Makoto Ito  
「伊藤塾」塾長

物事の全体を俯瞰し、  
新たな視点を得る。

正解のない問いに、  
最善の答えを出す、  
本質思考のすすめ。

中経の文庫

本質をつかむ思考法

はじめに

序章 あなたは思考停止に陥っていませんか？

いきなりベストの答えを出さなくていい  
考え続けることで「答えのようなもの」が見えてくる  
本質思考をするための「道具」がある

24  
28  
31

第1章 つねに「視点」を移動する

視点の移動で「思い込み」を排除する  
アイデアを広げる「水平思考」  
「相手の視点」で解決方法を探す  
「歩引いた「第三者の視点」をもつ」  
「人間以外の視点」に切りかえてみる  
「時間軸」を移動させることで真相が見えてくる  
「空間軸」を移動させることで新しい視点が生まれる  
「昆虫の目」と「鳥の目」で考える対象を見比べてみる  
積極的に「自分のいる空間」を移動する

35  
36  
43  
47  
52  
58  
61  
69  
73  
78



第2章

あらゆることを「疑う」..... 81

行動する前には必ず考えなくてはいけない..... 82

「その言葉が具体的に何を指すのか」を考える..... 87

同じ言葉でも「発言者」によって意図が違う..... 92

「言葉の概念」を疑ってみる..... 97

「多数派の意見」が真実とは限らない..... 101

「言葉にひっかけりをもつ技術」を身につける..... 106

「類義語と対義語」から言葉の意味や意図を探る..... 111

「数字」がもつ意味を考える..... 114

「日本人の常識」を疑う..... 121

「問いそのもの」を疑う..... 127

第3章

「知識」と「感情」を融合させる..... 131

「知識・感情・意欲」をバランスよく育てる..... 132

まずは理屈ではなく「感じる」..... 136

「直接、体験すること」で情は育てられる..... 142

「想像する習慣」が情を豊かにする..... 147

想像力を鍛える「本の力」..... 152

情だけで走らずに、一步「距離」を置く..... 156

「問題意識」をもつことで知識は増える..... 161

「書店」はさまざまな知識の宝庫..... 167

「自分と異なる世界」を避けない..... 173

第4章

考え続けるにはどうすればいいか..... 191

人間はそもそも意志が弱いもの..... 192

「何のために考えるのか」をつねに意識する..... 197

考えるときは「タイムリミット」を決める..... 203

判断の基準となる「ものさし」をつくる..... 207

「今考えなければならぬこと」を最小化する..... 212

「紙に書き出す」ことでマイナス思考を取り除く..... 219

「自分は前に進んでいる」という自信をもつ..... 224

「悲観的な人の考え方のクセ」をなくす..... 228

自分の判断をつねに「プラス」にとらえる..... 233

おわりに..... 238

目次を読むだけで何かを感じませんか？ そうなのです、このような本ではある程度の知識があればですが、著者の考えていることは目次を丁寧に読んだだけでもある程度は伝わるものなのです。

ただし高校や大学や資格試験を受けるにあたっての「基本書」はまったく話が別で「隅から隅まで徹底的に読み、理解し、暗記し」なければなりません。

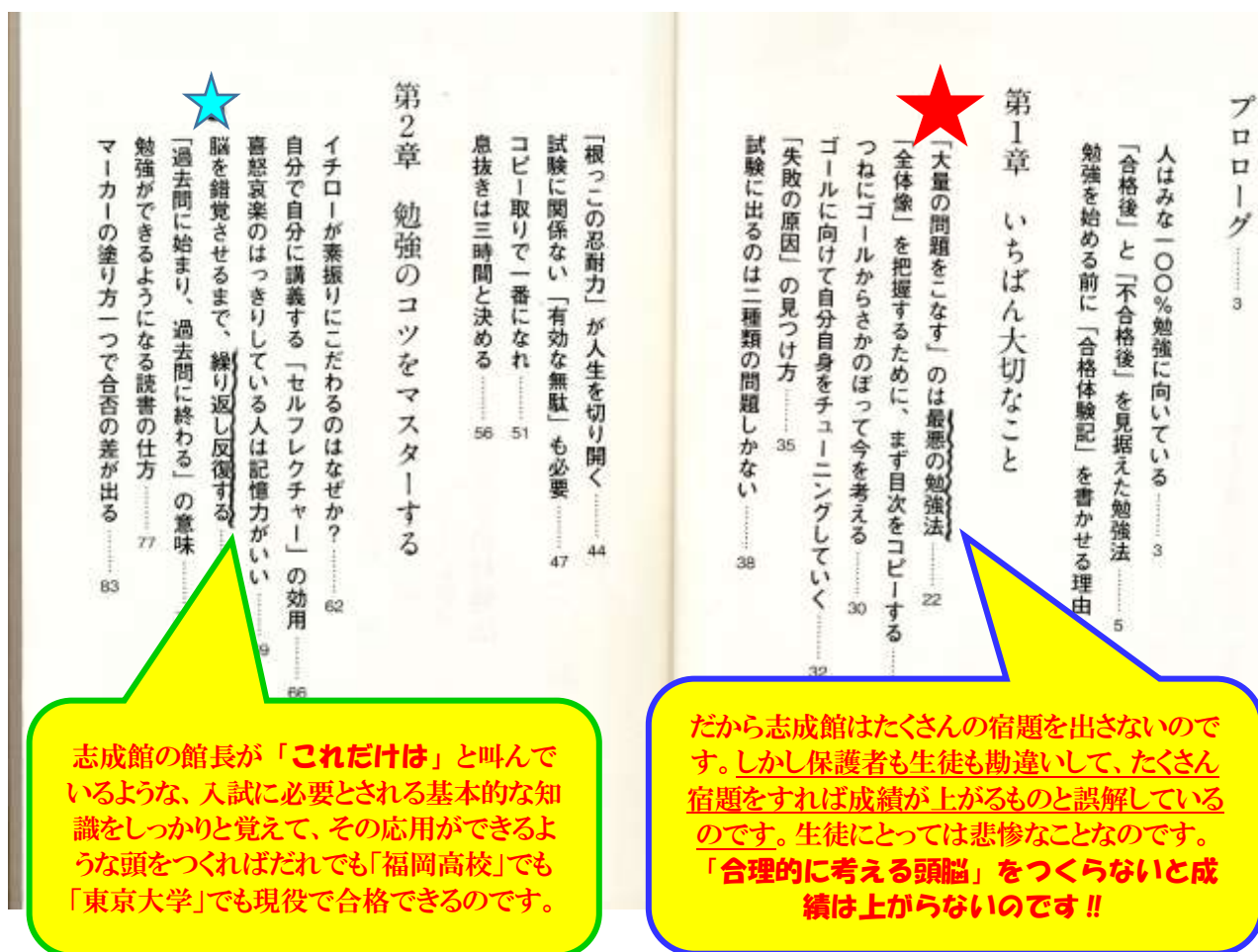
次の3冊目と4冊目は「点数が上がる学習方法へのアドバイス」である。点を上げることにしか興味がない人はこの2冊を読むだけでも良いと思います。彼は館長から見れば秀才ですが、彼は授業中にこんな話をされていました。「一生懸命に暗記して

知識をまとめて1週間たてば忘れてしまう」と。謙虚ですよ。しかし君たちは「これが東大生の本当の姿である」ととらえ「この世の中に本当に記憶力抜群の人や生まれつきの秀才はいない」ということを理解してください。それから伊藤真先生のこれらの本の中に「**教科書は汚せば汚すほど成績が上がる**」と書いてあります。全くその通りで、森館長が授業中にいつも話しているように、先生が授業中話すことで自分の知らないことは教科書の端っこにすぐにメモをし、別の本で知ったことも教科書に書き込むのです！！



伊藤先生は「法律」の指導をする先生です。そのために中学生から高校生そして大学生から大人まで通用する「学習法」の指導書を書かれていると思って読んでください。

伊藤真先生が書かれた膨大な「法律学習書」のほんの一部を「館長の社会論サイト」の法律の項にも表紙を載せています。興味があったらクリックしてみてください。将来法律家＝弁護士や裁判官や検察官になりたいと考えている人はぜひとも参照してください。



志成館の館長が「**これだけは**」と叫んでいるような、入試に必要とされる基本的な知識をしっかりと覚えて、その応用ができるような頭をつくれればだれでも「福岡高校」でも「東京大学」でも現役で合格できるのです。

だから志成館はたくさんの宿題を出さないのです。しかし保護者も生徒も勘違いして、たくさん宿題をすれば成績が上がるものと誤解しているのです。生徒にとっては悲惨なことなのです。**「合理的に考える頭脳」をつくらないと成績は上がらないのです！！**

なぜ具体例をメモすることが重要なのか…………… 86  
頭の回転を一段と速くする方法…………… 89

精神を整える「腹式呼吸」のコツ…………… 91  
効果の上がる予習・復習の仕方とは？…………… 94  
夢をかなえる時間の使い方…………… 96

「もう終わり」と思ってから、あと五分粘る…………… 100  
当日にピークをもつてくる方法…………… 101

模擬試験を受けるときは変なやつの際に座れ…………… 105  
「能力×気力×勉強法」の掛け算で考える…………… 108

### 第3章 挫折しそうになったときの対処法

スランプになったら、おめでとう…………… 112  
不安要因はすべて紙に書き出してみる…………… 115

「元氣ノート」と「夢ノート」をつける…………… 119  
「一つだけ願いをかなえてあげる」と言われたら？…………… 123

悲観的な気持ちはどうやって乗り越えるか…………… 127  
私が「逃げ道を用意しておく」ことをすすめる理由…………… 131

「成功報酬」を上手にぶらさげる…………… 134  
自分だけの「おまじない」をつくらう…………… 136

「睡眠・食事・ストレス」のバランスが大切…………… 140  
スランプ克服には「東京タワー」と「年表」が効く…………… 143

他人を尾行して、その人の人生を想像する…………… 146  
ピラミッドの中の恐怖体験が教えてくれたこと…………… 148

勉強以外の「夢中になれること」は徹底的にやろう…………… 153  
「想像力」を養えば「勉強力」がアップする…………… 155

### 第4章 勉強すればするほど人は磨かれる

「小さな成功体験」があったから今がある…………… 162

勉強ではなく、勉強法を教えてもらえ！…………… 169

勉強の面白さは全部で五段階ある…………… 174

「一言で言えない」のはわかっていない証拠…………… 177

「わかった」とは、手の平に「それ」がのる感覚…………… 181

### 第5章 夢をかなえる思考術

人生最大の悩みをどう乗り越えたか…………… 190

夢をかなえるには「大きな力」の助けが必要…………… 193

「耳に入る言葉」に気をつける…………… 197

言葉を粗末にすると、勉強効果も半減する…………… 200

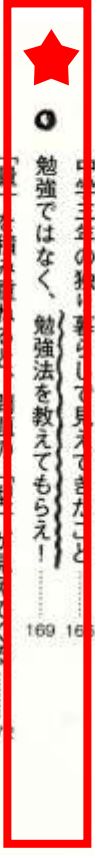
物欲でもいいから「夢」を持つ…………… 203

「一〇年後の自分」を想像するのはやめる…………… 207

勉強するとうことの意味…………… 211

「自己満足」こそが人を成長させる原動力…………… 213

エピソード…………… 219





以下①伊藤先生のその他の「学習指導方法」の本。写真で伊藤真先生が向井理タイプ的美男子だということがわかんと思います(笑)。「本を汚せば汚すほどあなたの人生は開けていく」のです ②館長が尊敬する経済学者で、アメリカの富裕層や軍事企業そして自分の政治経済の政策方針に反するという理由で小泉首相や竹中平蔵さんたち(彼らは日本の利益よりもアメリカの富裕層や軍事大企業の利益を優先しているのですが)に「痴漢」の濡れ衣をかけられてメディアから追放されている、本当の日本の愛国者として日本を守ろうとして戦っておられる植草一秀早稲田大学教授(元)と伊藤真さんの共著による現在の日本の分析=館長と同じ見解です③この素晴らしい「日本国憲法」を悪くしようという人たちと戦おうというテレビによく出る黒柳徹子さんや吉永小百合さんや国境なき医師団の中村哲さんやピーコさんたち(何人かは最近亡くなっています)による「日本国憲法を守ろう」というメッセージの本を2冊張り付けています。





早く核廃絶をしないと「無人飛行機のドローン」に核爆弾が東京や大阪や福岡の大都市上空まで運ばれて爆発し日本はあっという間に壊滅します。



小泉元総理や竹中平蔵たちの唱える「民営化」で何が起ったか理解していますか？日本国民みんなの共有財産が一部の企業やアメリカ等の大富豪のものになってしまったのですよ!! 植草さんと伊藤さんそして館長も怒っているのです!! 郵政民営化を急ぐ竹中平蔵に抵抗した植草一秀教授はひどいことに「痴漢」にてっ上げられてテレビから抹殺されたのです。本当です。

現在の日本でも「格差問題」が深刻になっています。しかし憲法25条から28条までの解釈をしっかりと、今の日本国憲法の「社会権」の理想を実現しようとするれば実は格差もなくなるのです。それほどまでに日本国憲法は優れているのです。与党の政治家や官僚もわかっているはずなのですが、まじめに取り組もうとしていません。主権者である国民が今の政治を変えるのです!! 伊藤真先生も同じ気持ちです。

学校自体や保護者の抱える問題に関する良書も、この項に次々と入れていきます

すぐ下の3冊の家の右の2冊は、「スポーツ系部活動」の中にも入れています。



世代間ギャップは、右の名著「ライフサイクルの心理学」などを読むと、すっきりするのですが…。親は子供を「自分の思い通りに育てがち」だから、昔から親子関係は、なかなかうまくいかないのでしょう。



【下右端】1989年に国際連合で「子供の権利条約」が採択され、昨年の2019年で30周年を迎えました。この本はカラーでいろいろな子供の権利が述べられているのですが、これを見ていると、改めて、日本の子供たちがいかに恵まれているかということを感じます。

